令和８年度 第２四半期

退職等年金給付組合積立金　運用状況

東京都職員共済組合

目次

・令和８年度　　第２四半期運用実績（概要）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２
・令和８年度　　第２四半期市場環境　（その１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３
・令和８年度　　第２四半期市場環境　（その２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
・令和８年度　　退職等年金給付組合積立金の資産構成割合・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５
・令和８年度　　退職等年金給付組合積立金の運用利回り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６
・（参考）前年度　退職等年金給付組合積立金の運用利回り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７
・令和８年度　　退職等年金給付組合積立金の運用収入の額・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ８
・（参考）前年度　退職等年金給付組合積立金の運用収入の額・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ９
・令和８年度　　退職等年金給付組合積立金の資産の額　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ10
・資産運用に関する専門用語の解説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ11

令和８年度　第２四半期運用実績（概要）

運用収益額 （第２四半期）	＋３．１６億円 ※実現収益額
運用利回り （第２四半期）	＋０．２３％ ※実現収益率
運用資産残高 （第２四半期末）	１，３７１億円 （簿価ベース）

※　情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

（注１）収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
（注２）上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

令和８年度　第２四半期市場環境（その１）

【各市場の動き（令和８年６月～令和８年９月）】

国内債券	10年国債利回りは上昇しました。期初は、物価上昇への警戒や日本銀行の追加利上げ観測を背景に、利回りは上昇基調で推移しました。期央には、国債需給への懸念や海外金利の上昇も意識され、上昇幅を拡大しました。期末には、日本銀行が政策金利を1.25％に引き上げたことから金利先高観が強まり、利回りは高水準で推移しました。
国内株式	国内株式（TOPIX）は小幅な上昇となりました。期初から期央にかけては、企業業績への期待やAI・半導体関連銘柄の上昇が相場を支えました。一方、期末には、原油価格の上昇を背景としたインフレ懸念や国内外の金利上昇が重荷となり、株式市場全体に利益確定売りが広がりました。半導体関連株は底堅く推移し、TOPIXは期を通じて小幅であるものの上昇基調となりました。
外国債券	米国10年国債利回りは上昇しました。期初は景気・物価指標や金融政策の先行きを見極める動きから、方向感に乏しく推移しました。期央以降は、原油価格の上昇によるインフレ再燃への警戒やFRBの金融引締め姿勢を背景に、利回りは上昇しました。 ドイツ10年国債利回りも上昇しました。エネルギー価格の上昇を受けたインフレ懸念に加え、ECBの金融引締め姿勢が意識され、期末にかけて利回りは上昇基調で推移しました。
外国株式	米国株式（NYダウ）は下落しました。AI関連投資への期待や中東情勢緩和観測が相場を支える局面もありましたが、期末にかけてはインフレ懸念の高まりや追加利上げ観測、中東情勢の不透明感などから下落しました。 欧州株式（ドイツDAX）は下落しました。景気回復期待を背景に上昇する場面もみられましたが、金融引締めへの警戒や景気減速懸念、中東情勢を巡る不透明感などから下落しました。
外国為替	ドル／円はドル安・円高となりました。期初から期央にかけては、日米の金融政策を巡る思惑から上下に振れる展開となりました。期末には、日本銀行の追加利上げ観測や政策金利の引上げを受けて日米金利差の縮小が意識され、円買いが優勢となりました。 ユーロ／円はユーロ安・円高となりました。ECBの金融引締め姿勢がユーロを支える場面もありましたが、日本銀行の利上げと円高基調を背景に、期末にかけてユーロ安・円高が進みました。

○ ベンチマーク収益率

	令和８年６月末～令和８年９月末
＜国内債券＞ NOMURA－BPI総合	▲1.85%
＜国内株式＞ TOPIX（配当込み）	3.79%
＜外国債券＞ FTSE世界国債インデックス （除く日本、中国、ヘッジなし・円ベース）	▲6.65%
＜外国株式＞ MSCI ACWI （除く日本、円ベース、配当込み）	▲1.91%

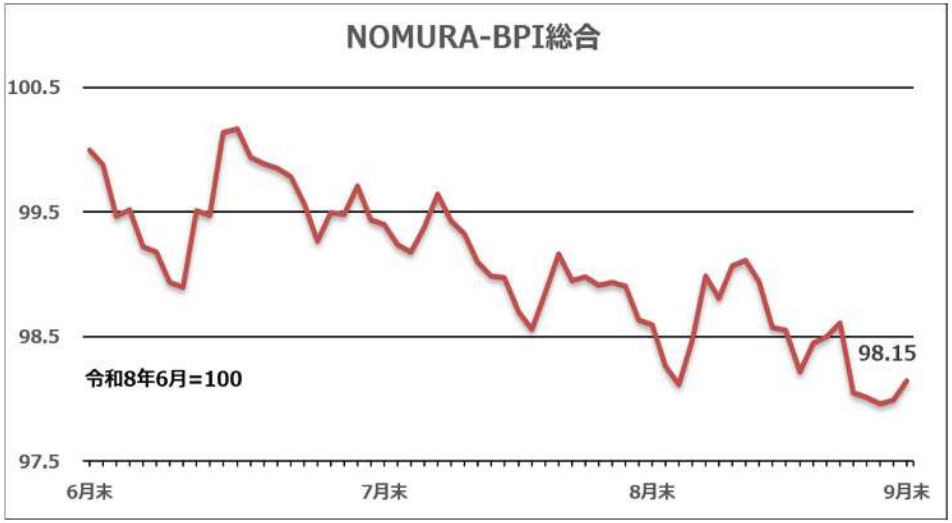
○ 参考指標

		令和8年6月末	令和8年7月末	令和8年８月末	令和8年9月末
国内債券	新発10年国債利回り　（%）	2.683	2.805	2.957	3.065
国内株式	ＴＯＰＩＸ　（ポイント）	3,994.76	4,003.30	4,156.29	4,108.65
	日経平均株価　（円）	70,062.32	64,362.02	66,311.93	66,753.72
外国債券	米国10年国債利回り　（%）	4.465	4.735	4.750	5.285
	ドイツ10年国債利回り（%）	2.860	3.206	3.324	3.586
外国株式	ＮＹダウ　（ドル）	52,319.20	52,485.03	53,185.90	50,906.05
	ドイツＤＡＸ　（ポイント）	24,995.81	25,629.24	26,258.11	25,199.19
外国為替	ドル／円　（円）	162.55	157.40	159.74	157.41
	ユーロ／円　（円）	185.68	181.43	185.59	178.35

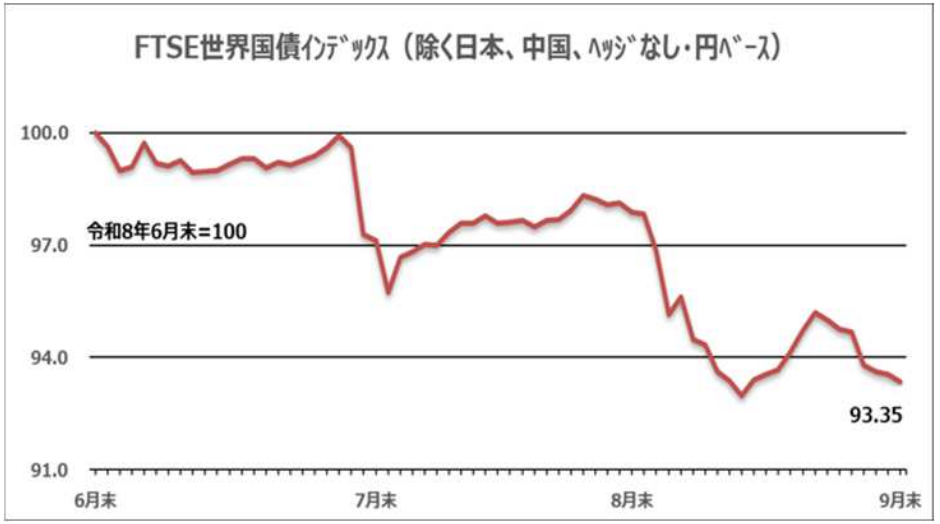
令和８年度　第２四半期市場環境（その２）

ベンチマークインデックスの推移（令和８年度第２四半期）　※令和８年６月末時点の指数を「100」としてグラフ化しています

【国内債券】



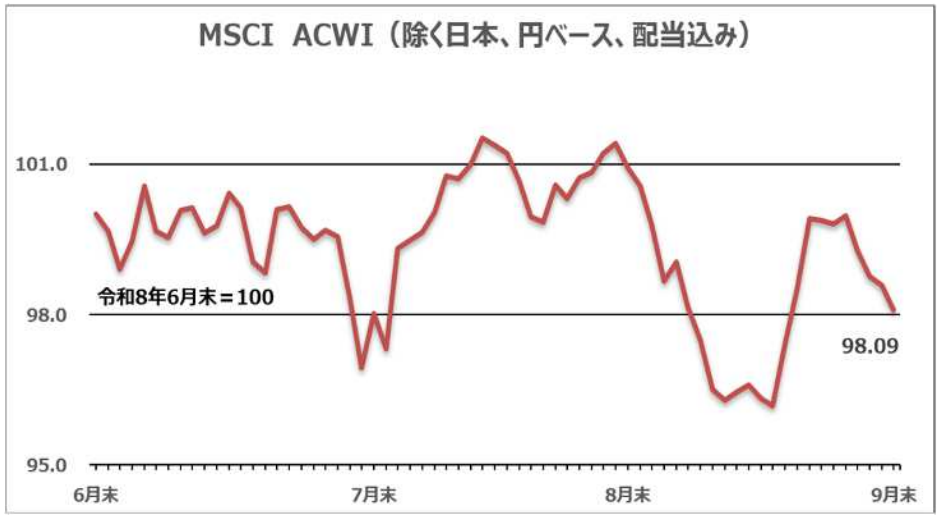
【外国債券】



【国内株式】



【外国株式】



令和８年度　退職等年金給付組合積立金の資産構成割合

（単位：%）

	令和７年度	令和８年度			
	年度末	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	年度末
国内債券	100.0	100.0	100.0	―	―
（うち短期資産）	(1.0)	(1.6)	(1.2)	―	―
合計	100.0	100.0	100.0	―	―

（注１）基本ポートフォリオは、国内債券100%です。
（注２）資産構成割合は簿価ベースの数値です。
（注３）上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。
（注４）各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。
（注５）短期資産は未払金等を考慮しているため、マイナスの数値になることがあります。

第2四半期末　運用資産別の構成割合



令和８年度　退職等年金給付組合積立金の運用利回り

○令和８年度第２四半期の実現収益率は、０．２３％となりました。
○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

（単位：%）

	令和８年度				
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	年度計
実現収益率	0.21	0.23	－	－	0.44
国内債券	0.21	0.23	－	－	0.44
（うち短期資産）	(0.00)	(0.00)			(0.00)

（参考）

（単位：%）

	令和８年度				
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	年度計
修正総合収益率	▲1.63	▲2.02	－	－	▲3.62

（注１）各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。
（注２）収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
（注３）修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
（注４）上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

（参考）前年度　退職等年金給付組合積立金の運用利回り

（単位：%）

	令和７年度				
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	年度計
実現収益率	0.15	0.16	0.17	0.19	0.68
国内債券	0.15	0.16	0.17	0.19	0.68
（うち短期資産）	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

（参考）　（単位：%）

	令和７年度				
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	年度計
修正総合収益率	0.07	▲1.32	▲2.45	▲1.93	▲5.63

令和８年度　退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

（単位：億円）

	令和８年度				
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	年度計
実現収益額	2.74	3.16	―	―	5.90
国内債券	2.74	3.16	―	―	5.90
（うち短期資産）	(0.00)	(0.00)	―	―	(0.00)

（参考）

（単位：億円）

	令和８年度				
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	年度計
総合収益額	▲18.29	▲23.16	―	―	▲41.45

（注１）収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
（注２）総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。
（注３）上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。
（注４）上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

（参考）前年度　退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

（単位：億円）

	令和７年度				
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	年度計
実現収益額	1.79	1.98	2.18	2.42	8.37
国内債券	1.79	1.98	2.18	2.42	8.37
（うち短期資産）	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

（参考）　（単位：億円）

	令和７年度				
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	年度計
総合収益額	0.77	▲14.49	▲27.35	▲21.69	▲62.76

令和８年度　退職等年金給付組合積立金の資産の額

（単位：億円）

	令和７年度末			令和８年度											
				第１四半期末			第２四半期末			第３四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	1,300	1,112	▲189	1,330	1,123	▲207	1,371	1,136	▲235	－	－	－	－	－	－
（うち短期資産）	(13)	(13)	(0)	(21)	(21)	(0)	(17)	(17)	(0)	－	－	－	－	－	－
合計	1,300	1,112	▲189	1,330	1,123	▲207	1,371	1,136	▲235	－	－	－	－	－	－

（単位：億円）

	令和６年度末			令和７年度											
				第１四半期末			第２四半期末			第３四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	1,166	1,048	▲118	1,195	1,078	▲117	1,233	1,099	▲135	1,277	1,114	▲163	1,300	1,112	▲189
（うち短期資産）	(12)	(12)	(0)	(19)	(19)	(0)	(13)	(13)	(0)	(30)	(30)	(0)	(13)	(13)	(0)
合計	1,166	1,048	▲118	1,195	1,078	▲117	1,233	1,099	▲135	1,277	1,114	▲163	1,300	1,112	▲189

（注１）上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。
（注２）時価及び評価損益は、仮に時価評価を行った場合の参考値です。
（注３）上記数値（令和８年度）は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。
（注４）各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。
（注５）短期資産は未払金等を考慮しているため、簿価、時価共にマイナスの数値となることがあります。

資産運用に関する専門用語の解説

○　実現収益額
（計算式）
実現収益額 ＝ 売買損益 ＋ 利息・配当金収入 ＋ 未収収益増減（当期末未収収益 － 前期末未収収益）

○　実現収益率
（計算式）
実現収益率 ＝ 実現収益額 ÷簿価平均残高

○　総合収益額
実現収益額に資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。
（計算式）
総合収益額 ＝ 実現収益額 ＋ 評価損益増減（当期末評価損益 － 前期末評価損益）

○　修正総合収益率
時価ベースで運用成果を測定する尺度の１つです。総合収益額を、元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。
（計算式）
修正総合収益率 ＝ 総合収益額 ／（簿価平均残高 ＋ 前期末未収収益 ＋ 前期末評価損益）

○　格付
債券の信用力や元利金の支払能力の安全性などを総合的に分析してランク付けし、アルファベットなど分かりやすい記号で示されたものです。格付機関が付与します。
一般にＢＢＢ格までが投資適格とされ、ＢＢ格以下になると信用リスクが高くなるとされています。